

# 子宮頸がんワクチン接種 105

## 重い副作用 106件

今年度から定期接種になった2種類の子宮頸がんワクチンで、接種後にアレルギーなどの重い症状が出る副反応(副作用)の報告が3月末までに106件あったことが16日、厚生労働省の専門部会で報告された。ほかにも痛みなどの健康被害の報告が複数あり、厚生労働省は事例の詳細を調査する。

厚生労働省は部会で、平成21年12月のワクチン販売から今年3月末までに医療機関や製薬会社から計1968件の副反応の報告があったと発表。接種100万回あたりでは約12・3件となり、インフルエンザワクチン(約0・9件)や不活化ポリオワクチン(約2・1件)より高いが、日本脳炎ワクチン(約26・0件)よりは低かった。部会では委員から「接種

との関連を結論づけるのは難しい」「詳しい情報が必要だ」などの意見が相次ぎ、現時点では医学的な論拠に乏しいとして定期接種の中止はしないとした。

部会では委員から「接種